

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1846号 2006年10月02日(月)

《 interest rate sensitive 》

世界の外国為替市場は、依然として金利動向に敏感な動きを続けている。世界的な不均衡は完全にバック・ファクター（後回しにされる要因）となっており、もっぱら金利の動きやその見通しが相場を動かしているというわけだ。こうした中であって、人民元は徐々に切り上げペースを速めており、これが今の外国為替市場では非金利的な動きといえる。

金利の動きが相場を左右しているのが鮮明に示されたのは、先週においてはポンドとドルの動きである。先週は久しぶりに対ドル、対円の両方において英国の通貨ポンドが弱かった。ブレアの辞任劇の中でも強く推移していたポンドが先週弱かったのは、英国の統計局が経済統計の過ちを認め、この結果「イギリスが早期に利上げすることはないだろう」との見通しが強まったため。もっとも相対的に金利の高い通貨であるポンドは、例えば対円など金利が低く、金利差の大きな通貨に対しては「やや弱含んだ」程度だったが、それにしても「今の世界の為替市場は金利に敏感」という市場環境を改めて想起してくれた。

ドルも同じような状況である。先週の後半に最も注目されたのは、セントルイス連銀の総裁で、まもなく FOMC（連邦公開市場委員会）の投票権を持つウィリアム・プールの発言である。ウォール・ストリート・ジャーナルによると彼は、今後の米金利見通しに関して

「Although Mr. Poole, a soon-to-be-voting member of the Federal Open Market Committee, said he'd favor higher interest rates if necessary, he added that he would be willing to act, "vigorously if necessary," in response to a combination of receding inflation and economic weakness. This was taken to mean he is looking at interest-rate cuts at some point, which typically weaken a currency.」

と述べた。「必要なら高い金利を志向する」という部分が、ドル買いに繋がった。もっともプール総裁は、インフレ率が低下し、アメリカ経済に弱さが出てきた時の対応を「強い姿勢で行動（利下げ）する」と述べてもいる。

プールの発言は両様に取りれるが、利上げに関する部分に反応して、対ユーロで1.28ドル近辺まで行っていたドルは、その後急速に戻した。先週末は1.26ドル台の後半。もっともドルは対円では週を通じて強く、118円台での引けとなっている。

こうした金利中心の為替市場の動きは、今後も続く見通しである。世界の通貨当局者の意

図として、不均衡を為替で調整しようという意図が見られるのは人民元のみであって、その人民元は完全に中国の通貨当局者の思うとおりに動かされている。こうした中では、民間の資本がやはり一番気にするのは金利の動きである。

《 TANKAN for Sep 》

今週の主な予定は以下の通りだが、金利の先行きを見る上でも今週は多くの重要な指標が発表される。日銀短観は先ほど発表されて、

[業況判断DI]

(「良い」 - 「悪い」・%ポイント、()内は前回調査時予測)

	2006/6月	2006/9月	6→9月	2006/12月	9→12月
			変化幅	まで(予)	変化幅
< 大企業 >					
		(22)			
製造業	21	24	+ 3	21	- 3
		(21)			
非製造業	20	20	0	21	+ 1
< 中堅企業 >					
		(13)			
製造業	13	14	+ 1	11	- 3
		(6)			
非製造業	4	5	+ 1	4	- 1
< 中小企業 >					
		(7)			
製造業	7	6	- 1	7	+ 1
		(- 9)			
非製造業	- 6	- 8	- 2	- 9	- 1
< 全規模合計 >					
		(6)			
全産業	6	6	0	6	0

[需給・在庫・価格判断D I (製造業)] (%ポイント)

2006/6月 2006/9月 6→9月 2006/12月 9→12月
 変化幅 まで(予) 変化幅

国内での製商品・サービス需給 (「需要超過」 - 「供給超過」)

大企業	- 7	- 6	+ 1	- 7	- 1
中小企業	-21	-21	0	-22	- 1

海外での製商品需給 (")

大企業	3	3	0	2	- 1
中小企業	- 7	- 7	0	- 8	- 1

製商品在庫水準 (「過大」 - 「不足」)

大企業	14	15	+ 1	-	-
中小企業	16	13	- 3	-	-

流通在庫水準 (")

大企業	11	11	0	-	-
中小企業	15	16	+ 1	-	-

販売価格 (「上昇」 - 「下落」)

大企業	- 3	2	+ 5	- 2	- 4
中小企業	- 7	- 4	+ 3	- 2	+ 2

仕入価格 (")

大企業	41	45	+ 4	34	-11
中小企業	47	52	+ 5	54	+ 2

[売上高] (前年度比・%)

2005年度 (修正率) 2006年度 (修正率)
 (計画)

< 大企業 >

製造業	6.7	-	3.7	+ 1.1
非製造業	6.1	-	2.7	+ 0.7

< 中堅企業 >

製造業	3.6	-	5.2	- 0.1
非製造業	1.8	-	3.9	+ 0.2

< 中小企業 >

製造業	5.6	-	2.4	+ 0.7
非製造業	2.9	-	0.7	+ 0.1

< 全規模合計 >

全産業	4.8	-	2.8	+ 0.5
-----	-----	---	-----	-------

(注) 修正率・幅は、前回調査との対比(以下、同じ)。

[経常利益] (前年度比・%)

2005 年度 (修正率) 2006 年度 (修正率)
(計画)

< 大企業 >

製造業	16.5	-	1.4	+ 1.7
非製造業	10.0	-	2.0	- 0.1

< 中堅企業 >

製造業	9.4	-	5.3	+ 1.0
非製造業	12.4	-	2.5	- 2.0

< 中小企業 >

製造業	8.4	-	0.6	- 1.7
非製造業	9.7	-	1.2	+ 0.1

< 全規模合計 >

全産業	12.3	-	1.8	+ 0.3
-----	------	---	-----	-------

[売上高経常利益率] (%・%ポイント)

	2005年度 (修正幅)		2006年度 (修正幅)	
			(計画)	
< 大企業 >				
製造業	6.48	-	6.34	+ 0.04
非製造業	3.93	-	3.90	- 0.04
< 中堅企業 >				
製造業	4.37	-	4.37	+ 0.04
非製造業	2.66	-	2.62	- 0.06
< 中小企業 >				
製造業	3.76	-	3.69	- 0.09
非製造業	2.43	-	2.44	0.00
< 全規模合計 >				
全産業	4.01	-	3.97	- 0.01

[設備投資額 (含む土地投資額) (注)] (前年度比・%)

	2005年度 (修正率)		2006年度 (修正率)	
			(計画)	
< 大企業 >				
製造業	13.9	-	16.9	+ 0.4
非製造業	3.8	-	8.5	- 0.4
全産業	7.2	-	11.5	- 0.1
< 中堅企業 >				
製造業	21.0	-	1.4	+ 3.1
非製造業	10.9	-	11.0	+ 4.5
全産業	13.9	-	8.0	+ 4.1

< 中小企業 >

製造業	8.0	-	3.3	+ 4.7
非製造業	11.7	-	- 5.4	+10.7
全産業	10.7	-	- 3.1	+ 9.0

< 全規模合計 >

製造業	14.0	-	12.5	+ 1.4
非製造業	6.5	-	6.2	+ 2.3
全産業	8.9	-	8.3	+ 2.0

(注) ソフトウェア投資額は含まない。

[ソフトウェアを含む設備投資額 (除く土地投資額)] (前年度比・%)

2005 年度 (修正率) 2006 年度 (修正率)
(計画)

< 大企業 >

製造業	13.3	-	17.0	+ 0.3
非製造業	3.5	-	9.2	- 0.6
全産業	6.8	-	12.0	- 0.2

< 中堅企業 >

製造業	15.0	-	8.3	+ 2.6
非製造業	12.6	-	4.3	+ 1.7
全産業	13.3	-	5.5	+ 1.9

< 中小企業 >

製造業	5.0	-	7.2	+ 3.1
非製造業	16.0	-	- 4.5	+ 7.4
全産業	12.8	-	- 1.4	+ 6.1

< 全規模合計 >

製造業	12.4	-	14.4	+ 1.0
非製造業	7.1	-	5.9	+ 1.0
全産業	8.8	-	8.7	+ 1.0

大企業の業況指数は、マーケットの予想がプラス2.1だったので、強い。中堅企業も強い業況感を保っている。しかし気になるのは中小企業がやや業況感を悪くしていること。景気がちょっと中だるみの印象がある中で、大企業は引き続き強い展開を示していることが分かったということだ。

今週の主な予定は以下の通り。

10月2日(月)	9月日銀短観(既発表) 9月新車販売 衆参両院で各党代表質問(～4日) 米8月建設支出 米9月ISM製造業景況指数 香港市場休場(国慶節) 中国市場休場(国慶節、～6日)
10月3日(火)	米9月自動車販売台数 韓国市場休場(建国記念日)
10月4日(水)	米MBA住宅ローン申請指数(9月30日の週分) 米8月製造業受注 米9月ISM非製造業景況指数 バーナンキ米FRB議長講演 コーン米FRB副議長講演 英中銀金融政策委員会(～5日)
10月5日(木)	米シカゴ連銀総裁講演 ECB理事会 韓国市場休場(お盆、～6日)
10月6日(金)	8月景気動向指数(速報) 米9月雇用統計 米債券市場短縮取引 台湾市場休場(中秋節)

アメリカの指標で注目されるのは、ISM製造業景況指数や米9月の雇用統計だろう。特に雇用統計は、非農業部門の就業者数が15万人を下回る状況が続いているので、こうした姿が定着するのかどうか。市場予想は非農業部門の雇用者数が「前月比12万人前後の増加」となっている。この市場予想を上回れば、来週にかけてドル買いが進みやすい。またその他の経済指標を含めて米GDPの2%台定着が見えてくれば、年内の利上げ見送りと場合によってはその先の利下げが見えてくる。もっとも先週指摘したようにアメリカ経済の急

減速はないだろう。

今週は、アジアの市場で休場が多い。

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。何と言っても「ディープインパクト」が凱旋門賞を取れるかが一番の注目度で、昨夜は夜12時過ぎまでテレビを見ていた人が多かったのではないのでしょうか。私もその仲間でしたが、最後に2頭にかわされて3着。いつもと違うレース運びで、最後の足も見られなかった。本命だったのに残念。それにしてもNHKは、夕べはディープに入れ込んでいた。

最近では3歳馬有利な凱旋門賞らしい。池江調教師が「最後は(3.5キロの)重量の差があったのかもしれない。激しい競馬をしたので、今後についてはゆっくり考えたい」と述べていた。そう言えば最近では3歳馬が勝つケースが多い。3.5キロというのは、どうやって決まっているのか。まあでも、馬も人間と同じほ乳類。あれだけの距離を移動して、環境の違うところでレースをするわけですから、そりゃやっぱりプレッシャーはあるでしょう。日本から行ったファンのマナーにもやや難ありだったようで。

ところで、石垣島を中心に置く八重山諸島に土曜日から来ています。日本の南が見たくて、人が住む日本最南端の島は波照間(はてるま)島というのです。石垣島から高速船で1時間ちょっと。珊瑚礁が隆起して出来た島です。600人弱が住む。島の名前の由来が面白かった。南のはて+うるま(珊瑚礁)の合成で名前が出来ていて、漢字は当て字。実は竹富島ももともと「タケトミ」という有力者がその島に居て、それでその島を竹富と書くようになったとか。

地図で見ると、八重山諸島は限りなく台湾に近い。特に与那国島などは台湾と目と鼻の先です。波照間島でも、中国大陸からも台湾からも400キロ強と言っていました。一方、東京からは2100キロ。波照間島では返還前は台湾から来た漁船と物々交換までしていたという。よく今の時代まで日本の領土であったと思う。

実際に時間をかけてここまで来ると、「領海までを含むと日本は世界で7番目の大きな国」というのが実感できる。観光も良いのですが、日本の大きさを実感できたのも良かったと思っています。

それでは、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》